

---

# 7月の普及活動状況

---

～ 県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## = 目 次 =

ダイジェスト版	1
---------	---

### 各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課	4
西濃農林事務所農業普及課	6
揖斐農林事務所農業普及課	8
中濃農林事務所農業普及課	10
郡上農林事務所農業普及課	12
可茂農林事務所農業普及課	14
東濃農林事務所農業普及課	16
恵那農林事務所農業普及課	18
下呂農林事務所農業普及課	20
飛騨農林事務所農業普及課	22

### 農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当	24
-------------	----

## < 7月普及活動状況ダイジェスト版 >

### 新たな産地づくりの推進 ~ 活力ある新産地づくり ~

#### 西濃農林 ブロッコリー **各地区部会の活動状況**

7月7日に大垣地区部会の役員会が開催され、新規の機械導入、新組合員の加入(1組織と2名)について合意した。農業普及課からは、シードテープによる直播栽培、中晩生品種比較、生分解性マルチ等、展示圃場の計画と調査について説明した。

同日に不破地区部会の役員会も開催され、播種計画が検討された。ついで、7月20日に総会が開催され、栽培研修会を農業普及課が行った。

安八地区部会では7月20日に栽培研修会を実施した。

#### 揖斐農林 アスパラガス **先進地視察研修会で産地化に向けた意識啓発**

7月27日、生産者と関係機関(JA、町、県)が16名参加し、JAとの共催により先進地視察研修会を開催した。国内有数の産地である長野県伊那市の半促成栽培圃場を視察し、栽培方式・肥培管理・病虫害防除等について勉強した。

管内のアスパラガス生産は、栽培歴も浅く直売向けがほとんどで、栽培管理も充分とは言えない段階である。農業普及課では、今後は高温



【単収3.7tのほ場を視察】

#### 中濃農林 円空さといも **円空さといも生産振興会議**

7月13日に、4回目の円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの選果方法、販売方法について検討を行った。

今後は、栽培技術の改善方策等について検討を行う計画である。

#### 東濃農林 ブロッコリー **ミニ産地づくりをめざし・・ブロッコリーの播種開始**

東濃管内では、地産地消を基本とするブロッコリーのミニ産地づくりに取り組んでいる。

瑞浪市では、7月14日に野菜づくり塾の一環として、前期のトマト塾に引き続き、ブロッコリー塾を開催した。

当日は、塾生27名が出席し、農業普及課が講義を、塾実証ほ場担当農業者が実技指導をそれぞれ担当し、ブロッコリーの播種作業を研修した。塾生は、播種したセルトレイを持ち帰り管理している。

栽培経験のない農家も多数存在するが、徐々に育苗技術が向上され、近隣農家あるいは集落にブロッコリー栽培が波及し、直売所や量販店に東濃産ブロッコリーが陳列されることを期待したい。



【播種作業の様子】

#### 下呂農林 龍の瞳 **現地研修会開催**

下呂地域では、龍の瞳生産組合による穂肥に向けての現地研修会が開催された。

7月4日には、下呂支部による研修会が開催され、各組合員のほ場を巡回し、現在の生育状況、今後の栽培管理について意見交換を行った。

これまでのところ生育状況は順調であり、今後の穂肥の施用時期、量



【現地研修会(下呂市乗政)】

#### 飛騨農林 宿讎かぼちゃ **産地戦略会議を開催!**

7月15日、JAひだ丹生川支店において飛騨農林事務所主催による「宿讎かぼちゃ産地戦略会議」を開催し、宿讎かぼちゃ研究会役員、JAひだ、中山間農業研究所等

関係者 13 名が出席した。

宿働かぼちゃは、今年 3 月に策定された「ぎふ農業・農村基本計画」の中で新たな産地づくりを推進する重点プロジェクトとして位置づけられている。会議では「産地育成計画」を策定し、各機関の役割分担を明確化し、今後 3 年間の振興方針を定めた。



【産地戦略会議(丹生川町)】

### 主要農産物の生産振興 ～売れる農産物づくりと産地の強化～

#### 岐阜農林 いちご若手生産者の新たな動き

就農 5 年までの新人を対象とした、新人研修会を農業経営課の支援のもと、7 月 1 日に農業技術センターで開催し、育苗と栽培の基礎について指導を行った。

また、岐阜市いちご部会青年部では、部会活動を盛り上げるため、広報、加工、技術の 3 部会を作り、新たな取り組みを始めた。広報では、facebook を使ったコミュニケーション、加工では農商工連携による加工品の開発と地元おこし活動への参加、技術ではベテラン農家の技術習得と若手による作業委託制度について計画を検討した。農業普及課は、青年部活動についてアドバイスや支援を継続して行っている。



【岐阜市いちご部会青年部活動】

#### 恵那農林 なす夏秋なすの産地活性化方策を検討 ～東美濃夏秋なす産地活性化検討会議を開催～

東美濃は県下を代表する夏秋なす産地であるが、近年は産地規模の縮小が懸案となっている。こうした背景から生産者組織である東美濃夏秋なす生産協議会では、各施策に取り組んでおり、これらに対して J A や農業普及課などの関係機関も活動支援にあっている。

今回の東美濃夏秋なす産地活性化検討会議は農業普及課の企画により開催し、J A 東美濃、中津川市、恵那市、中山間農研中津川支所、農業振興課の担当者らに出席を求め、当産地の課題を再確認しながら、産地拡大に向けた方策を話し合った。

今後、関係機関による生産者の減少要因を一層具体的にするとともに、それらへの対応策を計画化し、生産協議会への活動に反映することとした。また、ハード事業の活用が困難な現状であるが、場合によってはこのような支援のあり方も検討しながら、産地活性化を図ることとした。



【協議会組織を含め産地活性化を推進】

### 担い手の育成確保 ～明日の農業を担う新規就農者と地域農業を守る多様な担い手育成～

#### 可茂農林 J A めぐみの就農塾(夏秋なす)

7 月 7 日に地域就農支援協議会(事務局：J A めぐみの)主催の就農塾(夏秋なす)の第 3 回現地研修会が、美濃加茂市内ほ場で開催された。研修会では、雨の中収穫方法を実習した後、集出荷場にて選果選別の研修をおこなった。農業普及課からは、最近の夏秋なすの価格動向、経営としての夏秋なすの魅力について説明した。



【帰農塾の様子】



~ 農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取組 ~

# 岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年7月31日現在

## 今月の重点活動

えだまめ

### (岐阜えだまめ収穫体験・ぎふクリーン農業のPR実施)

J A ぎふ・えだまめ部会では、消費者の方々に「岐阜えだまめ」を広く知ってもらうため、7月16日に岐阜市曾我屋の生産ほ場において、収穫体験と試食会を実施した。当日は、約1,000人の来場者があり、多くの家族連れなどで賑わった。農業普及課では、部会活動の支援を行うとともに、ぎふクリーン農業、防虫ネット栽培等の紹介を行い、岐阜のえだまめをPRした。

(アンケート結果 N=140 ろぎふクリーン農業認知度 39%)

同日午後からは、えだまめ部会中央研修会が開催された。研修会では、市場、量販店関係者等との意見交換が行われ、今後の出荷、販売に関する情報交換を行った。



【写真】消費者収穫体験の様子



【写真】中央研修会(もぎ取り機見学)の様子

## 主要農作物の生産振興

水稻

### (特別栽培米生産者指導)

J A ぎふ特別栽培米生産推進協議会は、7月15日に温湯消毒施設を装備しているJ A なのはな(富山市)の育苗センターを視察訪問した。J A ぎふの特別栽培米でも種子消毒用の農薬を削減する温湯消毒の導入を検討している。農業普及課からは、特別栽培米の栽培管理ポイントを参加者に説明した。今後は、温湯消毒の導入に関して支援を行っていく予定。

キャベツ

### (加工用キャベツ栽培講習会開催)

全農からの提案で加工用キャベツの取り組みを各務原市で今年から始めている。営農組合を中心に約80aで栽培を予定している。農業普及課では、6月30日に講習会を開催し肥培管理、病害虫防除について指導した。

定植は8月中旬から9月上旬で、品種は「おきな」「冬藍」「Y R 銀次郎」。

1玉2kg程度を目標とし、単価は43円/kg(税込)

いちご

### (若手生産者の新たな動き)

就農5年までの新人を対象とした、新人研修会を農業経営課の支援もと、7月1日に農業技術センターで開催し、育苗と栽培の基礎について指導を行った。

また、岐阜市いちご部会青年部では、部会活動を盛り上げるため、広報、加工、技術の3部会を作り、新たな取り組みを始めた。広報では、facebookを使ったコミ

コミュニケーション、加工では農商工連携による加工品の開発と地元おこし活動への参加、技術ではベテラン農家の技術習得と若手による作業委託制度について計画を検討した。農業普及課は、青年部活動についてアドバイスや支援を継続して行っている。



【写真】新人研修会の様子  
かき



【写真】岐阜市いちご部会青年部活動

### 大玉生産に向け摘果推進！

かきの生育は春先の低温と日照不足により平年より1週間程度遅れており、過去10年で最も小玉の状況で推移している。また、開花期の天候不順等により生理落果も多く、園地や品種により着果数に差がある。農業普及課では、各産地で摘果の推進や夏場の管理について研修会を開催し、大玉生産に向けて取組を進めている。

## 担い手の育成・確保

女性農業経営アドバイザー

### (広報担当「機関誌GLAMA」発行準備)

岐阜ブロックでは5年に1度の「機関誌」編集を担当している。7月21日に第4回目の広報担当会議を開き、次号の発行について検討を行った。次号は、予定通り8月1日発行の見込み。農業普及課では、この活動の支援を行っている。

集落営農組織・営農組合

### (能郷白山の郷営農システム研究委員会の設立)

本年度、集落営農担い手発掘サポート事業として、本巣市根尾能郷地区がモデル地区となり取り組んでいる。6月30日に能郷地区の今後を検討するため、地元農業者・自治会を含む関係者で研究委員会を設立した。今後、研究委員会で能郷地区の獣害対策や担い手対策など地域の課題について検討・支援を行う。



【写真】能郷営農システム研究委員会の様子

## 地域の動き

各務原市

### (各務原市水田防除連絡協議会の設立)

7月7日に各務原市全体の水田防除を統括する各務原市地域防除連絡協議会が設立された。農業普及課では、今年度の各地域の共同防除計画の策定を支援するとともに、共同防除の留意点について指導した。

本巣地域

### (本巣地域水田農業担い手連絡協議会総会)

7月8日に本巣地域水田農業担い手連絡協議会通常総会が開催された。協議会では、鉄コーティング種子の水稻湛水直播栽培など新技術に取り組んでおり、農業普及課で支援を行っている。

# 西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成 23 年 7 月 31 日現在

## 今月の重点活動

### 朝市農産物生産研修会の開催

7月26日に管内の朝市・農産物直売所の生産者や担当者を対象にした研修会を開催した。当日は、米トレーサビリティ法の説明や農薬の適正使用の他、直売所向けの野菜、花きの栽培について説明した。



【写真】研修会の様子

## 主要農作物の生産振興

活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

### 各地区部会の活動状況

7月7日に大垣地区部会の役員会が開催され、新規の機械導入、新組合員の加入（1組織と2名）について合意した。農業普及課からは、展示圃場の計画と調査について説明した。

同日に不破地区部会の役員会も開催され、播種計画が検討された。ついで、7月20日に総会が開催され、栽培研修会を農業普及課が行った。

安八地区部会では7月20日に栽培研修会を実施した。

きゅうり

### 出荷終了

6月末で22年産きゅうりの共販出荷が終了した。対前年比は、出荷数量：100%、金額：94%、単価：94%、であった。これを受けて6月24日に栽培反省会が、また、6月27日に部会総会が開催され、農業普及課からはきゅうり黄化えそ病に関わる調査結果と対策について説明した。また、GAPについて、点検項目と判断基準を明確にした改正チェックシートで、自己審査を行った。

トマト

### 太陽熱消毒の実施

栽培が終了し、全生産者が太陽熱消毒を開始している。青枯病等の土壌深層にも効果の期待できる「糖蜜」を用いた還元消毒を試行する生産者が徐々に増加しており、具体的な使用方法についての相談を行った。



【写真】糖蜜を使用した太陽熱消毒

### 土壌診断結果の個人面談

各地区のトマト部会（海津、池辺、輪之内）で土壌診断結果に基づいた施肥設計の個人面談を開始した。全体的には、依然、塩基飽和度やリン酸成分が高い傾向で、土壌改良資材や肥料の過剰投入をしないよう助言している。昨年の診断結果をふまえ、改善を行った若手生産者で単収が向上している事例もみられる。

だいこん

### 安八町牧園芸組合だいこん部会反省会開催

7月12日に安八町牧園芸組合だいこん部会反省会が開催された。昨年の秋冬だいこんは、猛暑の影響を受け発芽不良や適期播種ができなかった等の理由で出荷量が落ち込んだ。一方、春だいこんは、JAぎふ管内で多発した空洞症の発生が少なく、秋冬、春だいこんを合せて前年並みの出荷量、販売金額を達成した。農業普及課からは、昨年発生となった問題点を整理し、次作へ向けての栽培指導を行った。



なし

### ハウス梨収穫開始

ハウス梨（幸水）の収穫が7月6日から始まった。日照不足の影響が心配されたが、食味は良好であった。天敵製剤（ミヤコカブリダニ）の使用は今年で3年目となり、農家自身も手応えを感じている。研修会では梅雨明け後の高温対策について指導を行った。

大垣市が農産物と農家の取組みを紹介する「大垣そだち農産物ニュース」の「梨特集」の作成支援を行った。

新たな取り組みとして、梨農家と市内アイスクリーム製造業者が協力して、梨のジェラートの商品開発を行っている。

8月以降に梨直売所等での販売を目標に現在進行中である。

トルコキキョウ

### 海津市でLED試作開始

海津市では6月のトルコキキョウの出荷が終了し、秋の出荷に向けて栽培している。農業普及課では、LEDメーカーからの依頼で、秋以降の出荷に向け、LED電照試験を開始した。6月7日に定植したほ場では、9月頃の出荷を予定している。

神戸町では春出荷が6月17日で終了した。中盤以降で予定したより開花が前進したため計画的な出荷ができなかった。



【写真】取材を受ける梨農



【写真】LED電照試験の状況

## 担い手の育成・確保

指導農業士

### 支部視察研修会の開催

指導農業士連絡協議会西濃支部では、例年農閑期となるこの時期に、会員相互の交流活動を目的に視察研修会を開催している。今年は8月5日に農業士と夫人等29人が参加し、JA飛騨トマト選果場とファーマーズマーケットの視察を計画している。

指導農業士の退任年齢切上げが検討される中、担い手育成等本来の活動に加え、指導農業士会への加入や、年齢引き上げのメリットについて本音の検討が必要である。

## 地域の動き等

海津市・養老町

### 営農組合を対象とした露地野菜への新たな取り組み

海津市では6月29日に営農組合による野菜栽培打ち合わせ会議を開催し、当面の計画として加工用タマネギ 2.7ha ブロッコリー、えだまめ各25aを作付けする計画で今後のスケジュール等を検討した。

養老町では7月19日にキャベツ栽培講習会を開催した。2営農組合、2個人で計86aで栽培予定である。播種は8月中旬からで、出荷は年内～3月までの予定である。

# 揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年7月31日現在

## 今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援事業（アスパラガス）

### 先進地視察研修会で産地化に向けた意識啓発

7月27日、生産者と関係機関（JA、町、県）が16名参加し、JAとの共催により先進地視察研修会を開催した。国内有数の産地である長野県伊那市の半促成栽培圃場を視察し、栽培方式・肥培管理・病虫害防除等について勉強した。

管内のアスパラガス生産は、栽培歴も浅く直売向けがほとんどで、栽培管理も充分とは言えない段階である。農業普及課では、今後は高温対策の実証圃を設置し、品質向上をめざすとともに生産組織の発足に向けて支援を行う予定である。



【写真】単収3.7tのほ場を視察

## 主要農作物の生産振興

水稲

### ハツシモ採種ほ栽培研修会を開催

大野町採種組合の6月中旬田植圃場で7月21日に現地研修会を実施した。現在、分けつ盛期にあり茎数は多めに推移している。水管理や異品種混入対策など今後の管理について徹底することとした。農業普及課では、穂肥施用時期に再度研修会を開催し、合格種子100%を目指した取り組みを支援していく予定である。

大豆

### 播種開始、台風以降の降雨の影響で一部の播種遅れる

揖斐地区の大豆は、大部分が狭畦無中耕無培土栽培で作付けされている。7月10日以降に本格的な播種が開始されたが、3～4割程度の圃場で台風6号以降の降雨により、播種作業が遅れている。浸水による出芽不良の圃場も見られることから、播き直しや播種が遅れた際の播種量など、状況に応じた適切な対応ができるよう農業普及課では、栽培情報を発信し支援を行った。



【写真】大豆の播種の状況

柿

### 産地活性化をめざし、視察研修会を実施

7月13日に愛知県豊橋市において、大野町かき振興会の役員等による現地視察及び販売検討が実施された。会員25名と関係機関（JA、町、農業普及課）が出席し、JA果実選果場や柿園地を視察しながら生産及び販売戦略について研修した。

### 品質向上をめざし、技術習得を図る

7月3日に大野町内6地区において、大野町かき振興会主催による摘果講習会が実施され、支援した。生産者約400人を対象に、同振興会技術部、JA及び農業普及課が講師となり、大玉果生産に向けた摘果技術の向上を図った。

7月19日には大野町内（早秋、太秋、富有園、各1ヶ所ずつ）において、大野町かき研究会の現地研修会が実施され、今後の着果安定、高品質果実生産に向けて支援を行った。

茶

茶の青空教室

### 良質茶生産をめざす夏場の管理

二番茶が終了し、来年の一番茶生産に向けた夏場の茶園管



理について青空教室を実施している。農業普及課は、土づくりや土壌改良、干ばつ防止対策、施肥、病害虫防除対策など、生育状況や気象予測に対応した栽培が出来るよう、支援を行った。併せて、栽培履歴、農薬使用、ぎふクリーン農業、GAP等に関する情報提供や啓発を行い、適正な取組を推進した。

実バラ（揖斐川町坂内実バラ生産組合）

### 視察研修会で先進地に学ぶ

7月27日に生産者及び関係者が集い、先進地である飛騨市の実バラ栽培について視察研修会を実施した。標高など栽培環境は異なるが、品種の選定や肥培管理、病害虫防除や雪対策・風対策など多くのことを研修し、坂内での今後の管理に活かすことができる有意義な研修となった。

小菊、しきみ（久瀬花き生産組合）

### 久瀬花き生産組合の品評会開催を支援

7月28日に久瀬花き品評会が開催され、作期前半の低温により生育が遅れる中、小菊49点、しきみ31点が出品された。揖斐農林事務所も審査員として審査に当たり、入賞9点を選出した。農業普及課では、今後も高品質な花きづくりと仲間づくりを目指し支援していく。



## 担い手の育成・確保

女性農業経営アドバイザー（西濃ブロック）

### 視察研修会の開催を支援

7月19日に西濃ブロック女性農業経営アドバイザーの視察研修会が実施され支援した。当日はあいにくの大雨となったが、西濃管内のアドバイザーのほ場を視察し、経営主やアドバイザーから経営概要の説明を受け、参加者は興味深く聞き入っていた。農業普及課では、今後も事業の企画・運営等を主に支援し、女性農業者の参画促進を推進する。



## 地域の動き等

### 生産組合が地元小学校総合学習を支援（池田町）

7月7日に池田町立温知小学校3年生90名が池田第一製茶組合（森正男組合長）荒茶加工施設の荒茶の製造行程を見学した。温知小学校3年生は「お茶博士になろう」をテーマとした総合学習に取り組んでおり、年度末に発表会を行う。組合側も次代を担う子供たちがふるさとの茶業を学ぶことに協力を惜しまず、農業普及課でも茶業の生産状況にかかわる資料、情報を提供している。生徒から「お茶の美味しい淹れ方について研究したい」などの要望も出ており、継続的に支援を行う予定である。



【写真】荒茶加工施設見学

### 学校給食の試食会を開催（池田町農業婦人クラブ）

池田町では郷土料理の復元を目指し検討を重ねている。7月1日には郷土料理である「にんじんごはん」を給食のメニューとして提供し、池田町農業婦人クラブ員たちも試食を行った。

今後は、農業婦人クラブ員が栽培した農産物を、より多く学校給食に利用してもらえるよう栽培支援等を行う予定である。





# 中濃農林事務所農業普及課普及活動状況

平成23年7月27日現在

## 今月の重点活動

活力ある新産地づくり農産物（さといも）

### 円空さといもの生産状況

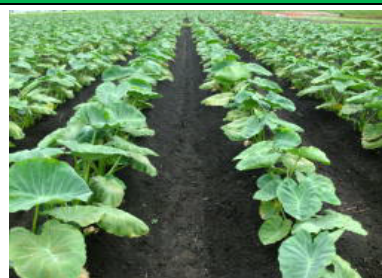
さといもの生育は、7月に入り、降雨が少なかったため、葉が焼けているほ場も見られる。

8月の降水量は、さといもの作柄に大きく影響するので、かん水を中心に栽培指導を行っていく。

### 円空さといも生産振興会議

7月13日に、4回目の円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの選果方法、販売方法について検討を行った。

今後は、栽培技術の改善方策等について検討を行う計画である。



【写真】7月下旬さといも生育状況

## 主要農作物の生産振興

水稻

### 生育は概ね順調

早植えコシヒカリの出穂は、7月16日ころから始まっている。農業普及課では、JAとともに中生及び晩生品種の穂肥・病虫害防除について、順次指導を行っている。

葉いもちの発生が、一部地域で認められたが、防除対策について支援し、現在は発生が収まっている。

また、昨年、品質低下をもたらした、高温障害の回避対策の検討を進めている。

大豆

### 適期播種により生育は順調

小麦の後作として大豆を栽培しているほ場では、小麦の収穫遅れから播種遅れが懸念されたため、農業普及課では、適期播種について情報提供してきた。その後、天候にも恵まれて順調に播種作業が進み、6月下旬から7月中旬に概ね終了した。現在、生育は本葉4枚程度である。

なす

### 現地ほ場研修会の開催

7月19日に、中濃夏秋茄子生産出荷組合の現地ほ場研修会が開催され、生産者ほ場を巡回し、それぞれの管理状況を確認し合った。

全体に、着果状況はまずまずだが、中・短花柱花が散見され、花とびが増えるなど、開花状況は今ひとつであった。定植後しばらく低温が続き、活着が遅れて発根量が少なかったこと、7月に入って最初の収穫ピークを迎え、着果負担が大きくなったこと、7月中盤の高温乾燥により、水分不足にともなう肥効減少のため、樹勢が衰えたこと等、複合的な要因が影響したと考えられる。

このような状況をふまえ、農業普及課では、施肥管理など当面の管理ポイントについて指導した。また、ハダニ類の被害ほ場が増え、鱗翅目害虫の食害ピークを迎えることを想定し、病虫害防除について検討するとともに、接近しつつあった台風6号の事後対策について確認した。

いちご

### いちごの育苗状況



【写真】水稻の生育状況



現在、ランナーの切り離し作業が行われているところであるが、全体的に昨年よりやや遅れている状況である。

6月下旬頃から、炭そ病の発生が確認されており、今後も高温で推移すると炭そ病の拡大が懸念されるため、農業普及課では、炭そ病の防除を中心に、引き続き指導を行っていく。

キク

### 市場出荷開始

美濃市菊生産組合では、7月22日に出荷準備会を開催し、7月28日から岐阜生花市場への出荷を開始した。販売金額3,000万円を目標に、12月末まで出荷する見込みである。

農業普及課からは、タバコガ類の防除及びえそ病対策について情報提供を行った。キクで使用可能な農薬の一覧表を作成・配布し、防除の徹底を図った。

## 担い手の育成・確保

武儀地区指導農業士会

### 中濃ブロック指導農業士合同研修会

可茂、郡上、武儀地区合同の中濃ブロック指導農業士合同研修会を開催した（参加者21名）。今年度は、武儀地区指導農業士会が企画を担当した。関市内の指導農業士4名の経営訪問と、関市内で農業参入している自動車部品会社の小松菜生産の様子を視察した。

人によって栽培方法が違い、経営に対する考え方が参考になったという感想が聞かれた。



【写真】小松菜収穫機の実演

## 地域の動き等

日本平成村特産品組合

### 農産加工体験教室で消費者と交流

日本平成村特産品組合では、組合の活動を見直し、今年度から、消費者を対象に農産加工品、郷土料理の体験を実施することとしている。

7月11日に、第1回目のこんにやくづくり体験教室を実施し、参加した9人が組合員からこんにやくの作り方を学び、作業を行った。参加者は、全員50歳代以上であったが、こんにやくづくりは初めての人ばかりで、プリプリのこんにやくのできあがりに驚いていた。今後は、五平餅、手打ちそばなどの品目で、加工体験教室を実施する予定である。



【写真】初めてのこんにやくづくり

上之保ゆず生産組合ほか

### 関・かみのほ 美濃ゆずをイオンで販売へ

7月12日に、イオンリテール(株)の青果バイヤー、政策推進チームの3名に、上之保地区のゆず産地を視察してもらった。生産者や関係者から、ゆず生産の現状等について説明し、今季から、ゆずを県内のイオン店舗で取り扱う方向で進めることとなった。

当日は、つるむらさき、パッションフルーツ、仙寿菜も見てもらい、生産者から取り組み状況について説明し、販売促進について意見交換を行った。



【写真】イオンとの意見交換

# 郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年7月31日現在

## 今月の重点活動

ひるがの高原だいこん

### 販売促進活動

ひるがの高原だいこん生産出荷組合婦人部では、7月16日(土)に愛知県大府市吉田町のげんきの郷地内において「ひるがの高原だいこん」の販売促進活動を行った。

また、産地PR用のDVDを全農岐阜園芸販売課と農業普及課が共同で製作し、消費者へPRする計画である。



【写真】販売促進

## 主要農作物の生産振興

活力ある新産地づくり支援事業(夏秋いちご)

### 夏秋いちご本格出荷スタート

ひるがの高原いちご組合では、春植え作型(慣行作型)の出荷が始まり、7月中旬から本格的な出荷となっている。今年は、秋植え作型+越年作型(前年の収穫株利用)+春植え作型があるため、例年よりも早く出荷が始まり、出荷量も極端に集中することなく、例年より平準化が見込まれる。今後は、11月上旬まで出荷が続く見込みである。

山菜

### 山菜「行者ニンニク」の自己増殖を推進

たかす山菜研究会では高標高地域の特色を活かして、山菜のなかでも行者ニンニクの栽培に力を入れている。

これまでに、購入苗、購入種子を主体として面積の拡大を図ってきたが、地道に生育年数を重ねたことで今年度は研究会内のほ場で採種ができるようになり、低コストな増殖体制が可能となった。

トマト

### 出荷目揃会、研修会開催

7月15日に郡上総合庁舎の大会議室でトマトの出荷目揃会及び研修会を行った。午前中に肥料メーカーの技術担当を講師に招き、葉面散布剤の有効な使用方法の研修を行った後、農業普及課からはGAPに関する研修会を行った。午後からは市場の関係者を招き、トマトの出荷規格について情報交換を交えながら目揃いを行った。

7月19日、21日、26日にかけて、夏秋トマトの地域別研修会を実施した。株の状態を見ながら梅雨明け前後の栽培管理について、何に注意をして管理するべきかのポイントのおさらいを行った。

花き

### ひるがのフラワーサークル目揃え会開催

7月13日、ひるがのフラワーサークルの目揃え会が開催された。出荷・流通および行政関係者等を参集し、主要品目であるオ



【写真】夏秋いちご



【写真】行者ニンニク栽培



【写真】トマト  
目揃会



【写真】トマト  
研修会



【写真】ユリ、トルコギキョウ



リエントルユリとトルコギキョウの出荷規格について確認した。

### フランネルフラワー切花実証

農業普及課では、農業技術センターと農業経営課の協力を得て、県育成品種であるフランネルフラワー「エンジェルスター」の切花生産について実証ほを設置し、生育調査および品質調査等を行っている。今後は、調査データや市場評価等を踏まえて、産地への普及性について検討を進める予定である。



【写真】フランネルフラワー

### 特別栽培米現地講習会

郡上市大和、白鳥地区にて特別栽培生産農家を対象とした現地講習会が開かれた。今回の講習参加者が稲作栽培圃場を周り、互いに指導を行った。



【写真】特別栽培米現地講習会

普段じっくりと他人の圃場を見る機会がないため自分の圃場とは違う状況を観察することにより自分なりに考える場を提供した。

現地講習を行う中でフタオビコヤガの食害がかなり見られる圃場が見られ、防除の必要性が考えられた。

## 地域の動き等

郡上市白鳥町六ノ里

### アート田んぼカンテラライトアップ

毎年恒例のカンテラライトアップが白鳥町六ノ里で行われ、カンテラに照らされた「アマゴ」と「ミナモ」が幻想的に浮かび上がった。



【写真】アート田んぼライトアップ

本年度は、震災の支援として「がんばろう日本！」の文字が入り、絵柄も昨年度よりもパワーアップして製作された。今年は、清流国体のマスコット「ミナモ」が応援に駆けつけ、ライトアップに集まった子供たちとふれあい場を盛り上げた。

今後も様々なイベントが計画されており子供たちが自然と接する機会が作られる。なお、8月中旬までが見ごろである。

ひるがの高原ふるさと市場組合

### サービスエリアでの販売スタート

ひるがの高原ふるさと市場組合の売り場は、高速道路のひるがのサービスエリア内にある。

今年は梅雨明けが平年より早くなり、高原野菜や花き等の多くの農産物が販売スタートした。



【写真】サービスエリアでの販売

農業普及課では組合活動を観光農業として支援して、農業の所得向上を支援していく計画である。

農産加工品

### 6次産業への挑戦

郡上市高鷲地内の農業生産法人では、農業6次産業化促進支援事業を活用して、だいこんとにんじんの農産加工品を開発し、大手量販店や市場へ出荷する準備に入った。

農産加工関連機材の導入後は今まで廃棄等処分していた農産物が、付加価値を高めた農産加工品として販売できる見込みである。



今後の新商品開発に弾みが付くものと思われる。

【写真】切干しだいこん、にんじん

# 可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年7月29日現在

## 今月の重点活動

集落営農担い手発掘サポート事業

### 「室山集落を考える会」開催

白川町下佐見・室山公民館において、6月29日に第2回「集落営農組織化委員会」開催に向けた打合せ会議が開催された。集落農業者・集落営農サポーターをはじめ、町・県庁農産園芸課・可茂農林事務所の担当者が出席し、サポーターが整理・提案した今後の集落活動（案）について検討した。

そして、7月8日に岐阜大学教授・学生の集落訪問・視察に合わせて「組織化委員会」が開催され、グリーン・ツーリズム、鳥獣害対策等を背景にした農業関連体験を組み入れる今後の活動の方向性が示された。農業普及課は、今後も「集落営農組織化支援チーム」の構成員として、支援を継続する。



【写真】参集者に活動提案するサポーター（手前右）

## 主要農作物の生産振興

活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

### （坂祝町青ねぎ生産部会の先進地視察研修会）

坂祝町青ねぎ生産部会は、6月29日に市場動向や実需者ニーズ等の情報収集を目的に、岐阜市場を訪問した。市場側からは、カットねぎの他産地の生産増加と需要の減少による厳しい状況が説明され、品質の見直しや青ねぎだけでなく白ねぎ等のバリエーションを広げた、加工用ねぎの出荷について提案があった。部会では、市場側の提案を持ち帰り、普及も加わって検討することとした。



【写真】写真市場訪問の様子

大豆

### 本葉成長期（中山間地域）～は種期（平坦地）

管内では、約87haの大豆栽培が予定されている。そのうち、中山間地域の約20haで6月上旬に播種が行われ、7月15日までに中耕培土作業が終了した。なお、平坦地については、7月11日までに約26haの播種が行われたが、高温乾燥による発芽不良が認められている。農業普及課は、今後も生育状況を随時確認し、栽培管理支援を実施する。



【写真】大豆は種風景（加治田営農組合）

トマト

### トマト目揃会でいよいよ本格出荷開始

美濃白川夏秋トマト部会の出荷目揃会が、7月5日に「はなの木会館」で開催された。出荷規格の変更点の確認や栽培研修会により今後の管理について技術統一を図った。

その他、6月27日には美濃白川夏秋トマト部会女性部の会合が行われ、販売促進計画やトマトバーガーの組織化、トマト料理レシピの募集など活発な話し合いとなった。また、7月23日からは東白川村トマト収穫体験がスタートした。



【写真】トマト目揃え会（東白川村）

いちご

### 平成23年度いちご生産スタート

ランナー切り離しは7月上旬から開始され、下旬まで順次実施される。子苗受け進度は、例年並みからやや遅れぎみ。現在の生育は、おおむね良好であるが、ハダニ類の発生がやや多い。今後は、高温の影響で炭そ病の発生が懸念されるため、防除情報の提供等支援していく。



梨

### コンフューザーNの効果

ナシヒメシンクイの交信攪乱剤（コンフューザーN）の導入が進めてられており、その発生は少なく推移している。

### 山之上果樹研究部会視察研修

山之上果実農協果樹研究部会は、7月6日に徳島県の果樹研究所県北分場を視察し、梨の栽培技術について研修を行った。貴重な情報を収集でき、有意義な研修となった。部会員からも多くの質問が出され、熱心な情報交換ができた。

茶

### 二番茶の摘採

7月上旬から二番茶の摘採が始まり、7月13日には二番茶第1回共販会が白川茶流通センターで開催された。平均単価は1,175円/kgで、荒茶生産量は前年並みの見込み。

### 幼木管理

ほ場整備が進められており、3月から4月にかけて定植された苗の活着はよかったが、梅雨明け後は高温乾燥で推移している。その対策として、かん水の実施と、敷き草投入等と呼びかけている。

### 県茶品評会

管内からは43点が出品され、そのうち10点が一等に入賞。なお、関西茶品評会には白川町14点、東白川村3点が出品される。審査は8月に愛知県西尾市で行われる。



【写真】熱心に視察研修に取り組む

## 担い手の育成・確保

### 若い農業者グループ 「みのかもファーマーズ倶楽部」アンテナショップ開設

JAめぐみの加茂野支店の空き店舗を利用して、7月9日に美濃加茂市内の若い農業者13名が活動する「みのかもファーマーズ倶楽部（MFC）」のアンテナショップが開設された。店内には、MFC会員の農産物をはじめ、加茂野ふれ愛朝市部会やフレッシュマザーズの農産物、チャレンジ21や加茂農林高校の加工品、かも丸アイス等が並べられた。店舗は、直売活動とともに美濃加茂市の農産物、MFCの活動について情報



【写真】店内の風景

発信を行う拠点としても位置づけられている。

### 新規就農者 JAめぐみの就農塾（夏秋なす）

7月7日に地域就農支援協議会（事務局：JAめぐみの）主催の就農塾（夏秋なす）の第3回現地研修会が、美濃加茂市内ほ場で開催された。研修会では、雨の中収穫方法を実習した後、集出荷場にて選果選別の研修をおこなった。農業普及課からは、最近の夏秋なすの価格動向、経営としての夏秋なすの魅力について説明した。



【写真】就農塾の様子

## 地域の動き等

### 可児市 豆菓子「可児っ子大豆 カリッコ」試食PR会及び試験販売開催

JAめぐみのとれたっひろば可児店にて7月16～17日に、豆菓子試食PR会と試験販売を開催した。当日は可児店の5周年祭が開催されており、大盛況の中、試食やアンケート・試験販売を実施できた。2日間で6種類の味付け、合計200パックを販売し、アンケートを約90人から回収した。今回の消費者アンケートで得られた意見は、商品化の最終検討に反映し、8月下旬には販売を開始する予定となっている。農業普及課として今後も支援を継続する。



【写真】試食PRの様子

# 東濃農林事務所の普及活動状況

平成23年7月31日現在

## 今月の重点活動

### (ミニ産地づくりをめざし・・ブロッコリーの播種開始)

東濃管内では、地産地消を基本とするブロッコリーのミニ産地づくりに取り組んでいる。

瑞浪市では、7月14日に野菜づくり塾の一環として、前期のトマト塾に引き続き、ブロッコリー塾を開催した。

当日は、塾生27名が出席し、農業普及課が講義を、塾実証ほ場担当農業者が実技指導をそれぞれ担当し、ブロッコリーの播種作業を研修した。塾生は、播種したセルトレイを持ち帰り管理している。

栽培経験のない農家も多数存在するが、徐々に育苗技術を習得し、近隣農家あるいは集落にブロッコリー栽培が波及し、直売所や量販店に東濃産ブロッコリーが陳列されることを期待したい。



【写真】播種作業の様子

## 主要農作物の生産振興

水稲

### (出穂期を迎えて栽培管理の徹底)

5月中旬までに移植されたあきたこまち、ひとめぼれは出穂期を迎えた。

活着期は低温により2～3日遅れたが、分けつ期の高温傾向により、逆に1～2日進んだ状況となっていた。しかし、最近の低温寡照傾向により、再び平年並みの出穂へと推移しつつある。

7月27日には研修会において、病害虫対策や水管理の徹底について啓発した。

大豆

### (摘心、中耕培土を実施)

大豆の生育は、7月8日の梅雨明け以降好天が続いたため、昨年比で一葉程度進んでいる。7月26日から開始された摘心作業は、全面積の作業が完了した。一方、中耕培土は、7月31日までに全面積の作業が完了した。農業普及課は、今後もこうした基本作業の徹底について支援を実施していく。

スイートコーン

### (評判上々)

多治見市で栽培され7月上旬から出荷が始まっているスイートコーンの収穫が7月中旬にピークを迎えた。

天候不良と病害に苦労した前年に対し、病害防除に取り組んだ今年は、昨年比5.7倍の出荷量となっている。春日井市や多治見市内の大手量販店へ出荷しており、評判は上々とのことであった。スイートコーンの出荷は、8月上旬まで続く予定である。

## 担い手の育成・確保

集落営農組織

### (集落営農設立準備会の活動)

土岐市鶴里町では、集落営農の実現を視野にいたした検討を重ねている。

7月26日には、事業主体の岐阜大学から担当教授と学生が現地を訪れ、集落営農組織化サポート事業意見交換会を開催し、農業者・市・集落営農サポーター・県と意見交換を行った。農業者らは、集落営農に向けた活動経過や地域の状況を説明し、耕作放棄地等を案内するなど積極的な姿勢がみられた。今後、より具体的なアンケート実施や、耕作放棄地の解消の方策等を検討しながら、集落営農の可能性をより具体化していく予定である。

## 地域の動き等

全域

### (土岐地区農業普及事業推進協議会総会の開催)

7月4日にJAとうと本店において、土岐地区農業普及推進協議会の総会が開催された。JA・三市とともに、都市近郊と中山間地域の条件を生かした地産地消を基本とした農業の展開等、地域農業の振興に向けた事業計画の承認を得た。

土岐市

### (学校給食)

土岐市では、濃南地域で農産物直売に取り組んでいる農業者グループが市と協力して学校給食への供給を開始した。

昨年度試験的に始め、それを発展させ今年度は、計画的に取り組んでいる。7月19日は今年度第一回で、たまねぎとじゃがいもが出荷され、夏野菜カレーとして児童・生徒に提供された。給食に同席した農家らは、子供らの「おいしい」という言葉に元気をもたらったようであった。

瑞浪市

### (半原かぼちゃ出荷始まる)

今年は移植後低温で推移したため、平年より5日遅い7月11日から出荷が始まった。出荷されたかぼちゃは、地元菓子製造業者で季節限定のスイーツとして販売される。今年度も約4000個の出荷を見込んでいる。

多治見市

### (ブルーベリー開園式盛大に開催)

「(有)甘原ええのお」は、7月26日、同社農園において、今年度のブルーベリー観光農園開園式を開催した。式は、多治見市が主催したJR古虎溪駅からのウォーキング参加者150人が見守る中、多治見市長・同市議会議員、地元選出両県会議員、JA常務、当事務所小野木所長等来賓多数を迎え、盛大に開催された。

「(有)甘原ええのお」山田代表は、「来場者に『おいしい』と言って楽しんでもらえる農園にしたい」と挨拶し、テープカットの後、ウォーキング参加者は、早速、熟した実を探してブルーベリー狩りを楽しんでいた。



【写真】テープカットする式典出席者



# 恵那農林事務所の普及活動状況

平成23年7月31日現在

## 今月の重点活動

### 夏秋なすの産地活性化方策を検討 ～東美濃夏秋なす産地活性化検討会議を開催～

東美濃は県下を代表する夏秋なす産地であるが、近年は産地規模の縮小が懸案となっている。こうした背景から生産者組織である東美濃夏秋なす生産協議会では、各施策に取り組んでおり、これらに対してＪＡや農業普及課などの関係機関も活動支援にあたっている。

今回の東美濃夏秋なす産地活性化検討会議は農業普及課の企画により開催し、ＪＡ東美濃、中津川市、恵那市、中山間農研中津川支所、農業振興課の担当者らに出席を求め、当産地の課題を再確認しながら、産地拡大に向けた方策を話し合った。

今後、関係機関による生産者の減少要因を一層具体的にするとともに、それらへの対応策を計画化し、生産協議会への活動に反映することとした。また、ハード事業の活用が困難な現状であるが、場合によってはこのような支援のあり方も検討しながら、産地活性化を図ることとした。



【写真】協議会組織を含め産地活性化を推進

## 主要農作物の生産振興

活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

### 高品質な苗づくりに向けて、播種作業研修会を開催

地域で集落営農組織の経営補完品目として2年前から導入が始まったブロッコリーの播種時期を迎え、農業普及課はＪＡ東美濃と協力して7月15日に播種作業研修会を開催した。

この研修会は育苗期間中の注意事項を説明するだけでなく、試験用に用意した種子の播種作業を全員で行い、セルトレイの中央に効率よく種をまく方法など、意見を出し合いながら作業の改善を検討した。また、トレイには黒色と白色を用いて、育苗状況の試験もしている。

次回は8月中旬頃に移植作業の研修を予定している。



【写真】農家が注視する中、播種作業を実演

飼料用稲

### 生育状況を確認し指導方針を統一 ～関係機関合同生育調査～

農業普及課は7月11日、飼料用稲の生育状況を把握し、今後の栽培管理や需給調整の参考にするため、ＪＡ東美濃、東濃農業共済、県農業経営課、中山間農研中津川支所の担当者とともに生育調査を実施した。管内7カ所を巡回し、品種別・地域別調査を行った他、今年度取組んでいる乳苗移植や鉄コーティング直播等、新技術の普及性についても検討した。現地水田では関係機関の意見交換も行い、協働して耕畜連携を推進していくこととなった。



【写真】草丈・茎数・葉色等を調査

大豆

### 適切な栽培管理を促進 ～大豆中耕・培土・除草現地研修会を開催～

地域の大豆生産については、単収・品質とも低いことが課題となっている。そこで農業普及課では、7月21日にひがしみの大豆生産者協議会と連携して中耕・培土・除草現地研修会を開催し、栽培技術の向上を図った。

中津川市苗木地区の栽培圃場を視察後、公民館にて各生産者から栽培状況の報告、農業普及課から栽培管理についての説明を行い、意見交換した。排水対策、除草対策、病虫害防除に



【写真】現地・現物・現実を見ての意見交換



いて質疑が飛び交い、活発な意見交換となった。

## 夏秋トマト

### 夏秋トマト産地後半出荷量の安定をめざして～技術部会の取り組み～

東美濃夏秋トマト生産協議会技術部会の圃場巡回を7月26日に開催した。技術部会員をはじめ、JA営農担当者等23名の出席があり、各地域の実証圃および中山間農研中津川支所を巡回し実証状況の検討を行った。

今年は、後半の出荷量を安定させることを目的に、晩期作型、中段での摘花房、遮光資材の3項目を重点事項として取り組み、各地の技術部会員が実証圃を設け取り組むこととした。

現時点では摘花房など結果が見えてきた項目もあるが、遮光資材等は今後の実証次第である。

農業普及課では、技術部会に対し目標を明確にした計画づくりや調査の指導を行ってきた。また各地域への波及効果をねらって、地区毎の研修会では、技術部会員の圃場で実証状況を確認するよう呼びかけを図っている。今後は9月上旬に2回目の圃場巡回を行い、結果および評価をまとめ、効果の高いものから順に地域での導入拡大を目指す。



【写真】実証内容を説明をする技術部会員

## フランネルフラワー

### 恵那のフランネルフラワー拡大中

県育成の鉢花品種「フランネルフラワー」が県内で加率的に栽培が拡大している中、恵那地域では、シクラメン生産と作業が競合する等で拡大が進んでいない状況。

農業普及課では、フランネルフラワーが、種苗費や燃料代が少なく済み、作業労力が少ない割に単価も比較的安定していることなど利点を説明。本年には親株を配布するなどして普及に努めた。その結果、前年度のフランネルフラワー生産者は3戸のみであったが、本年度新たに4戸(切り花2戸、鉢花2戸)が取り組むこととなった。

7月13日には研修会を開催し、フランネルフラワーを生産する上での注意点など徹底を図った。新しく始める生産者には播種作業の実習も行った。ここで播種された苗は、約1ヶ月間中山間農研中津川支所で育成された後、各生産者の圃場で育てられ、来年5月に出荷される予定である。



【写真】は種作業を体験する新規生産者

## 担い手の育成・確保

### 後継者育成

### 農業高校生の現地視察研修会を実施

農業普及課では、毎年7月下旬に管内の農業高校(恵那農業高校、阿木高校)と連携し、1年生を対象とした農業現地視察研修会を開催している。

今年度は、7月26日に恵那農業高校が現地視察研修会を開催し、加子母でシクラメンと夏秋トマト、坂下で超特選栗の栽培について研修した。

指導農業士の瀬藤輝己さんのトマトハウスでは、トマト栽培に一番大切なのは土作りと朝早く水をやることなど栽培のポイントについて語って頂き、高校でトマトを栽培している生徒達は今後の管理に活かしていきたいと話していた。



【写真】瀬藤さんからトマト栽培について説明を受ける恵那農業高校の生徒達

# 下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年7月31日現在

## 今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援事業（「龍の瞳」）

### 現地研修会開催

下呂地域では、龍の瞳生産組合による穂肥に向けて現地研修会が開催された。

7月4日には、下呂支部による研修会が開催され、各組合員のほ場を巡回し、現在の生育状況、今後の栽培管理について意見交換を行った。

これまでのところ生育状況は順調であり、今後の穂肥の施用時期、量について確認をした。

農業普及課としては、現在の生育状況を踏まえて、穂肥の適正施用、病害虫防除について助言、高品質安定生産に向けて支援していく。



【写真】現地研修会（下呂市乗政）

## 主要農作物の生産振興

夏秋トマト

### 夏秋トマトが出荷の最盛期

夏秋トマトの色や形など品質、大きさ等の出荷基準を生産者間で確認する目揃え会が、7月12日に益田夏秋トマト生産組合、7月15日に下呂夏秋トマト生産組合で実施された。農業普及課からは、梅雨明け後の栽培管理について講習を行った。

6月上旬から始まったトマトの出荷は、当初、台風6号以降の天候不順と低温で着色が遅くなり、停滞気味であった。しかし、梅雨が明け、7月に入り定植時期の遅かった生産者の出荷も始まったことで、出荷量も多くなり、現在は最盛期を迎えている。

例年、梅雨時期の6月中～下旬は日照不足の影響による落花、ガク枯れ、尻腐れ果等の障害が発生し、果房の花がすべて落花する場合も見られる。しかし、今年は、障害の程度が例年より少なく1～2個の着果が確保されており、今後も安定した出荷が見込まれている。



【写真】下呂夏秋トマト生産組合  
目揃え会（下呂市野尻）

飛騨黄金

### 飛騨黄金の出荷にむけて

7月25日にJA金山支店で金山地区の飛騨黄金を栽培しているJAひだ金山飛騨黄金研究会（6名）を対象に飛騨黄金の目揃え会が開催された。

飛騨黄金は、8月上旬に開花するため、菊の一番の需要期である8月の盆に向けて生産されている。このため、蕾の大きさ等から出荷期における花の具合等を予測し、出荷状況を検討した。

今年は、去年に比べて全般的に蕾が少し小さく、盆に間に合わない農家もできそうである。



【写真】蕾の大きさを確かめる農家  
（金山町）

農業普及課としては、今後、生育が遅くなった原因と対策等を考えていきたい。

## 担い手の育成・確保

新規就農者

### 先進地農家派遣学習出発式

7月25日に農業大学校の2年生の先進農家派遣学習出発式が派遣農家宅で行われた。

「先進地農家派遣学習」とは、岐阜県農業大学校が先進農家に学生を派遣して、実社会での農業体験し、斬新で高度な農業観を身につけ、経営実践能力の向上と豊かな人間形成を図ることを目的に毎年実施している。

今回は、2学年の学生1名が下呂市内のトマト農家に7月25日から8月26日の1ヶ月間派遣される。

学生に対して、派遣農家から「栽培においてひととおり体験して、やりたいことはどんどん言ってほしい」と励ましの言葉をいただいた。

学生も緊張気味であったが、終始和やかな雰囲気であった。

農業普及課としても無事に派遣学習が終わるよう農家巡回を通して、学生を見守っていく。



【写真】研修内容を確認する派遣先農家（一番右）と学生（左から2番目）  
（下呂市乗政）

## 地域の動き等

下呂市萩原町地区

### 農林事務所職場研修開催

農林事務所では、各課の職務内容について理解を深めることで幅広い県民のニーズに応えるために、各課が担当となって所内研修を実施している。7月13日には農業普及課および農村整備課の担当で研修を行った。

テーマは、「環境に優しい米づくり」及び下呂市の特産「夏秋トマト」とした。

「環境に優しい米づくり」では、平成4年から地元畜産農家の堆肥を使用し、平成12年にぎふクリーン農業へ生産登録している萩原町丹精米組合の活動状況について研修した。当組合では、本年度、水田魚道を設置し、生き物にやさしい田んぼでの安全・安心な米作りにも取り組んでいる。

「夏秋トマト」では、鳥獣被害が多い場所で夏秋トマトを栽培している生産者から実際の状況について話を聞いた。以前は、イノシシが多かったが最近は鹿が多くなり、背の高い電気柵が必要になったとの話があった。

鳥獣害対策については、農林事務所全体として重点的に取り組んでいる課題であり、現地にて生産者の話を聞くことで職員の意識が高まった。



【写真】水田魚道と丹精米生育状況  
（萩原町）



# 飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年7月29日現在

## 今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

### 産地戦略会議を開催！

7月15日、JAひだ丹生川支店において飛騨農林事務所主催による「宿儺かぼちゃ産地戦略会議」を開催し、宿儺かぼちゃ研究会役員、JAひだ、中山間農業研究所等関係者13名が出席した。

宿儺かぼちゃは今年3月に策定された「ぎふ農業・農村基本計画」の中で新たな産地づくりを推進する重点プロジェクトとして位置づけられている。

会議では「産地育成計画」を策定し、各機関の役割分担を明確化し、今後3年間の振興方針を定めた。



活力ある新産地づくり支援品目（飛騨黄金）

### 摘蕾研修会を開催！

7月1日、高山市下林町にてJAひだ花卉出荷組合菊部会主催による「摘蕾研修会」が開催され、約30名の生産者が参加した。

今年は昨年より10日ほど早く出蕾しており、盆需要期（8月1～10日）よりやや早く出荷される見込みである。また、アブラムシの発生が多く、黒さび病等の発生も始まっているが、時折の雨により防除に苦慮しているところである。

農業普及課からは病虫害防除など今後の栽培管理や摘蕾方法についての指導を行った。



## 主要農作物の生産振興

水稻

### 斑点米カメムシ類に注意！

昨年、被害が多かった斑点米カメムシ類に対し、農業普及課及びJAは6～7月にかけて管内132箇所の水稻青空（夕空）教室（延べ1,300名出席）において出穂前の期間限定一斉畦畔草刈りや適期防除について啓発を行った。

また、飛騨農業振興会発行の情報誌「飛騨のこめ」において、カメムシ対策を強調するとともに、農業普及課、病虫害防除所、JAで行ったすくい取り調査結果をもとにカメムシ多発に伴う注意喚起を促す「号外」も発行し、管内の全農業者に対し防除の徹底を呼びかけた。

飛騨トマト

### 現地検討会を開催！

7月19日、地球温暖化戦略的対応体制確立事業の現地検討会を開催し、当事業のメンバー（普及支援協会、農水省、資材メーカー）とともに現地実証ほの視察を行った。

当事業は夏秋トマトの高温対策を確立するのが目的で、飛騨と下呂の農業普及課が連携し、丹生川町で換気ファン、清見町で通路灌水、下呂市で遮光資材と手法を変えた高温対策の実証ほを設置している。

今年も梅雨明けが早く、7月から猛暑が続いていることもあり、高温対策が重要な年



となりそうである。上記の実証ほに加え、優良生産者の夏期栽培管理実態調査（灌水  
量調査等）も行っており、現場で活かせる高温対策を一つでも多く確立したい。

飛騨ほうれんそう

### 中間目揃会を開催！

6月30日、飛騨野菜出荷組合ほうれんそう部会各支部主催による「中間目揃会」が  
各地域の集荷場等で一齐に開催された。

昨年は梅雨明け以降、連日高温が続き、ほうれんそうの品質低下が目立ったことから、  
今年は開催日の3日前に集荷されたほうれんそうから数点をサンプルとして抜き取り、5  
で保管した状態で品質の変化を確認できるように展示し、関係者（普及指導  
員、JA集荷場担当者・営農指導員）から丁寧な調整作業と温度管理の徹底を説明し  
た。今後は8月に全生産者を対象にサンプル調査を実施する予定である。

## 担い手の育成・確保

指導農業士

### 経営研修会を開催！

7月20日、指導農業士主催による「経営研修会」が38名参加の  
もと高山市漆垣内、丹生川町にて開催された。

昨年は口蹄疫の感染予防の関係で11月に延期し、本年は台風の  
接近による開催中止が心配されたが、無事開催することができた。

当日は指導農業士4戸の農場訪問と平成24年度から稼働するト  
マト選果場の視察、参加者による意見交換会が行われ、農業普及課  
からは鳥獣害の平成23年度方策の説明を行った。



## 地域の動き等

高山市

### 農業生産工程管理（GAP）研修会開催！

高山野菜出荷組合では、昨年「飛騨GAP」として農業生産  
工程管理の取り組みを進めてきたが、全生産者にその意義や必要  
性について、十分周知されているとは言い難い状況であった。そ  
こで、生産者に分かりやすく、参加しやすい研修を行うために、  
寸劇を交えた内容にして7月19日～27日に5回のブロック別研  
修会を開催した。

当日は、出荷組合役員、農業普及課及びJA職員が役者となり、生産者の作業場を  
模して、一日何気なく行っている作業にも問題点があることを分かりやすく紹介し、  
決して難しいことを行うことではないことを説明した。まずは農薬関連の事項につ  
いて重点を置くが、今後、生産者間で現地確認ができる体制作りに進展していくことが  
期待される。

大野郡白川村

### 鳥獣害対策の指導者研修会を開催！

7月15日、白川村上町地区にて飛騨地域鳥獣被害現地対策本  
部主催による「飛騨地域鳥獣被害防止対策指導者研修会」が  
開催された。

今回は飛騨地域の鳥獣害対策に関わる関係者を対象に、防草  
シート・防護柵などの設置方法について、実演を交えながらの  
研修が行われた。

この研修会の実施により、各地域の鳥獣害対策として防護柵などを設置する場合に、  
参加者が率先して指導できる体制が整った。



## 県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当  
平成23年7月29日現在

### 1 専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

#### （1）試験研究等で開発した先進的技術の現地への実証・普及 トマトポット耕栽培検討会議の開催

「トマトポット耕栽培」は農業技術センターで開発された技術であり、最近、この技術への関心が高まり県下でも普及しつつある。

そこで、7月7日に農業技術センターの研究担当者を招き、すでに導入したもしくは今後導入される農家や産地を担当する普及指導員を招集して、技術の基礎と最新の研究内容について研修するとともに、円滑な技術の普及にむけ栽培や導入上の問題・課題等について検討を行った。  
(野菜担当：加藤高伸)

#### （2）普及指導員等の資質向上

##### 「高度専門技術（スペシャリスト養成）研修」の実施

7月14日、県の重点品目である「夏ほうれんそう」を担当する普及指導員に対し高度専門技術（スペシャリスト養成）研修を実施した。

「夏ほうれんそう」生産では全労力の約2/3を占める調整作業の改善を進めることが経営安定のポイントとなっている。

当日は、3戸の生産者の調整作業について、実際に調整場のレイアウトや作業時間等の詳細な調査を行い、それぞれの生産者の問題点や改善点を明らかにした。今回の研修を通じて身につけた手法等を参考に、各地域で作業改善への取り組みの進むことが期待される。



<ほうれんそう調整過程の調査>

(野菜担当：成田久夫)

##### 「技術・経営強化（経営指導高度化）研修」を開催

7月28日、普及指導員を対象に第2回目の『技術・経営強化（経営指導高度化）研修』（全7回）を開催した。今回の研修では4名の普及指導員に対し、技術支援担当からライフプランの必要性について指導するとともに、社会保険労務士を講師に招き「労務管理の手法」をテーマとした講義を行った。労務に関する各種制度の説明後、普及指導員から労働保険等の社会保障制度に関する質疑が相次いだ。その後、具体的な経営改善提案にむけての対象経営体の検討を行い、今後の普及指導活動に活かすこととした。

(農業経営担当：遠山敬司)



### 「普及指導員養成講座」を開催

7月6日、普及指導員資格未取得者5名を対象に、第3回目の『普及指導員養成講座』を開催した。今回は協同農業普及事業の運営指針における普及指導活動の基本的な課題について、活動の展開方法と留意点をグループ演習で行った。後半は、本番と同様の時間で模擬試験を実施し、資格試験審査課題（ウ）の解答文作成方法の習得を図った。

今後、残り1回の集合研修と個別指導を組み合わせ、農業政策の現状認識と課題の把握を促すとともに、普及活動・研修専門担当チームを中心に各受験者所属の支援者と連携し課題（ウ）原稿の添削を中心に指導を行う。

<グループでの検討>

（花き・研修担当：井戸誠二）



### （3）行政及び関係機関との連携及び情報の提供

#### 麦民間流通地方連絡協議会の開催

平成23年度岐阜県麦民間流通地方連絡協議会が7月26日じゅうろくプラザで開催された。23年産麦の収穫量や品質状況を確認し、24年産麦についても生産と実需双方の希望数量を検討する場である。23年産麦の作柄は、3月の低温や登熟期～収穫期の降雨により量的にも質的にも不良の麦秋となったことを実需に報告した。24年産麦については、これまでミスマッチ（生産過剰）が発生していたが、外国産麦の価格高騰等の影響から逆ミスマッチ（生産不足）が発生する状況に変わった。

（土地利用型作物担当：吉田一昭）

#### ブロッコリー推進プロジェクト会議の開催

ブロッコリーは、「ふるさとのじまん農産物づくり推進事業」にて県下で産地化が進み、22年度までに20haを越える作付けが実施された。また23年3月には、JA全農岐阜が主催する推進会議において、1億円を超える産地づくりを目指して関係機関一丸となって推進することが確認された。県においても「活力ある新産地づくり支援事業」において新たな産地づくりを目指し強化しているところである。

23年度の播種を前に、7月6日には普及、試験研究、流通販売の関係機関を招き、昨年度の生産販売の課題を踏まえて、適期作業の推進と安定生産の実現・高品質生産出荷の実現に向けて情報の共有と指導事項の統一を図った。

（野菜担当：加藤高伸）